

## ● 第1章 小中一貫教育を実施する学校施設の整備例 …… 27

### 施設一体型

- 福島県 郡山市
1. 湖南小中学校 …… 29
- 茨城県 つくば市
2. 春日学園 …… 33
- 東京都 品川区
3. 荏原平塚学園 …… 37
- 神奈川県 川崎市
4. はるひ野小中学校 …… 41
- 愛知県 飛島村
5. 飛島学園 …… 45
- 京都府 京都市
6. 京都大原学院 …… 49
- 国立大学法人 京都教育大学
7. 京都教育大学附属  
京都小中学校 …… 53
- 広島県 府中市
8. 府中学園 …… 57
- 長崎県 五島市
9. 奈留小中学校 …… 61

### 施設分離型

- 京都府 京都市
10. 東山泉小中学校 …… 65
- 広島県 府中市
11. 府南学園 …… 67

## ● 第2章 先行事例における計画・設計の事例間比較 …… 69

# 第1章 小中一貫教育を実施する学校施設の整備例

施設形態ごとに計11校の学校施設の先行事例を紹介し、第1部第3章第2で示した「小中一貫教育に適した学校施設の計画・設計における留意事項」について、その具体的内容を解説する。

	施設一体型									施設分離型	
	1 湖南小中学校	2 春日学園	3 荏原平塚学園	4 はるひ野小中学校	5 飛鳥学園	6 京都大原学院	7 京都教育大学附属 京都小中学校	8 府中学園	9 奈留小中学校	10 東山泉小中学校	11 府南学園
掲載ページ	P.29	P.33	P.37	P.41	P.45	P.49	P.53	P.57	P.61	P.65	P.67
開校年	平成17年	平成24年	平成22年	平成20年	平成22年	平成21年	平成22年	平成20年	平成20年	平成26年	平成20年
児童生徒数※1 (特別支援学級・児童生徒数)	205人 (0人)	1451人 (13人)	537人 (0人)	1364人 (24人)	374人 (3人)	76人 (2人)	861人 (35人)	991人 (17人)	85人 (1人)	685人 (10人)	1302人 (35人)
普通学級数※1 (特別支援学級数)	9学級 (0学級)	43学級 (4学級)	19学級 (0学級)	41学級 (9学級)	15学級 (3学級)	9学級 (2学級)	27学級 (6学級)	30学級 (4学級)	7学級 (1学級)	23学級 (3学級)	48学級 (13学級)
学年段階の区切り	6-3	4-3-2	4-3-2	4-3-2	4-3-2	4-3-2	4-3-2	6-3	4-3-2	5-4	6-3
整備手法※2	増築・改修	新築	新築	新築 (増築・改修)	新築	増築・改修	増築・改修	新築	新築	新築/ 増築・改修	改修
<b>計画・設計のポイント</b> (先行事例の主な特徴と計画・設計における留意事項【第1部第3章第2を参照】との関係)											
一貫性確保への対応 教育活動の	小中一貫した教育課程 に対応した施設環境	●			●		●		●	●	
	学年段階の区切りに対応 した空間構成、施設機能			●	●	●		●	●		●
	異学年交流スペース の充実	●	●	●	●	●		●	●	●	
	小中一貫教育の取組の 高度化に資する共同利用					●		●	●		
学校運営の 一貫性確保への対応		●		●		●					●
小中一貫教育の実施に 適した安全性の確保	●		●					●			
既存学校施設の有効活用						●	●			●	
地域と共にある 学校施設の整備	●		●	●		●				●	

## 〈第2部内の表記について〉

- ・事例に使用する各校名称は愛称を用いている。
- ・開校年は小中一貫教育、小中連携教育の開始年を示す。
- ・児童生徒数、学級数等の情報は別途記載がない限り平成26年度時点のものとする。
- ・学年や施設設備の名称は便宜上統一した表記を採用している。

- ※1 児童生徒数および学級数は小・中学校全体を示している。
- ※2 整備手法は開校時点のものを示している。(はるひ野小中学校は児童生徒数の増加により、平成26年に校舎を増築・改修している。)

# 第1章の構成

## ■ 学校概要

児童生徒数や施設規模等、学校の基礎データを示しています。

## ■ 計画・設計のポイント

各事例の主な計画・設計上の留意事項を示しています。各ポイントの具体的な整備例は、次のページで紹介しています。(P.27の表にある『計画・設計のポイント』に対応しています。)

**3. 荏原平塚学園**  
東京都 高尾区立平塚小学校・荏原平塚中学校

**計画・設計のポイント**

- 施設上の特色
- 配置図
- 平面図

**学校概要**

項目	内容
所在地	東京都高尾区平塚
児童数	約1,000名
校舎面積	約10,000㎡
敷地面積	約20,000㎡
建築費	約10億円

**教育上の特色**

- 「学び」の場としての役割を重視し、学習意欲を高めるための環境を整備している。
- 学習意欲を高めるための環境を整備している。

**学校選択制（マゼンタ体制）**

本校は、学習意欲を高めるための環境を整備している。

## ■ 運営状況

各学年での授業方法、運営方式、授業時間等を示しています。

## ■ 施設利用状況

各室の数や配置、共同利用の状況を示しています。

## ■ 配置図・平面図

各学年の普通教室や特別教室の配置、昇降口の位置、異学年交流や地域交流が行われるエリア等を図示し、校舎のゾーニング計画を分かりやすく示しています。

## ■ 具体的な整備例

前ページの『計画・設計のポイント』に基づき、図表や写真を用いて整備内容を分かりやすく示しています。

**1. 学年毎の区画に対応した空間構成、施設機能**

各学年の区画に対応した空間構成、施設機能を示しています。

**2. 小中一貫教育の実施に適した安全性の確保**

小中一貫教育の実施に適した安全性の確保を示しています。

**3. 異学年交流スペースの充実**

異学年交流スペースの充実を示しています。

**4. 地域と共にある学校施設の整備**

地域と共にある学校施設の整備を示しています。

**校長の視点から**

校長の視点から整備内容を説明しています。

# 1. 湖南小中学校



福島県 郡山市立湖南小学校・湖南中学校



校舎外観

## 背景

湖南地区は少子・高齢化が進み、小学校の複式学級が年々増加傾向にあった。平成11年度に地域住民を中心として「湖南地区小学校の統合を促進する会」が発足。市に要望書を提出するなど、小学校の統合に向けた推進活動を実施した。

地区内の5つの小学校を「湖南小学校」として統合し、既存の中学校（湖南中）校舎の隣に小学校校舎を増築し、平成17年4月、小中一貫教育を開始した。

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

	学 年										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
運営状況	学年段階の区切り	小学部					中学部				
	授業方法	学級担任制					教科担任制				
	運営方式	特別教室型									
	授業時間	45分									
	校長	校長1人									
	副校長・教頭	小学校教頭1人					中学校教頭1人				
	部活動	なし					部活動				
	PTA	PTA組織を一本化									
	施設利用状況	ゾーニング	1階		2階			2階		1階	
		校長室					1階				
職員室						1階					
保健室		1階				1階					
特別支援学級						なし					
音楽室						1階					
家庭科室						2階					
図書室						1階			1階		
ランチルーム		2階(180席)									
昇降口		1階									
体育館		1階(アリーナ)					1階(アリーナ)				
グラウンド		プレイコート				グラウンド					
プール		1階(屋内)					1階(屋外)				
給食室	1階(単独校方式)										

## 学校概要

学校規模	[小]普通:6学級(133人) [中]普通:3学級(72人)
学年段階の区切り	6-3
開校年	平成17年(2005年)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
校地面積	42,633㎡
延床面積	8,346㎡

## 教育上の特色

「ともに生き 未来を創る たくましい湖南の子」を教育目標とし、地域に開かれた学校づくり、郷土学習の充実等地域連携の強化や恵まれた自然を活かした環境学習の充実を行うと共に、9年間を一貫させた教育課程の編成を行う。全国に先駆けて小中一貫教育を開始したため、教員の異動や他校からの転出入を配慮し、6-3制を維持して小中一貫とした。低学年は、学級担任制を基本とし、小学3~4年生から緩やかに教科担任制を導入し、多くの教科で小中相互の乗り入れ授業を行っている。

また中学校教員による小学5~6年生への英語表現科授業に加え、外国人教師による英語表現科授業を小学1年生から実施している。

## 学校運営(マネジメント体制)

1人の校長が小・中学校長を兼務する。教務関係、生徒指導関係、学校事務は共同実施している。

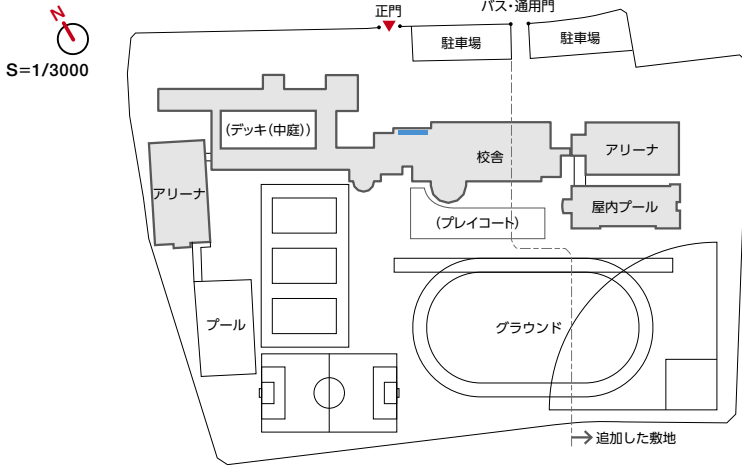
## 計画・設計のポイント

- 1.異学年交流スペースの充実
- 2.小中一貫教育の実施に適した安全性の確保
- 3.地域と共にある学校施設の整備

## 施設上の特色

- 小学校の新校舎を既存の中学校の校舎と一体化させて増築。校舎と校庭は一体化したが、小学校の体育館、プールは新たに設置。遊具施設は校庭の校舎付近に置き、小学生が安心して遊べる天然芝生のプレイコートも設置。
- 管理諸室や特別教室は共有しており、管理諸室は校舎中央に、特別教室は利用頻度の高い中学校側に多く配置されている。増築した小学校棟には、多目的ホールやランチルーム、図書室等の小中の交流を促進する場所を多く設けている。
- 小学校校舎の増築には地元の杉材を多く使用。語り部の部屋や郷土資料室等、学校内に地域のコミュニティ拠点としての交流スペースを設けている。

## 配置図

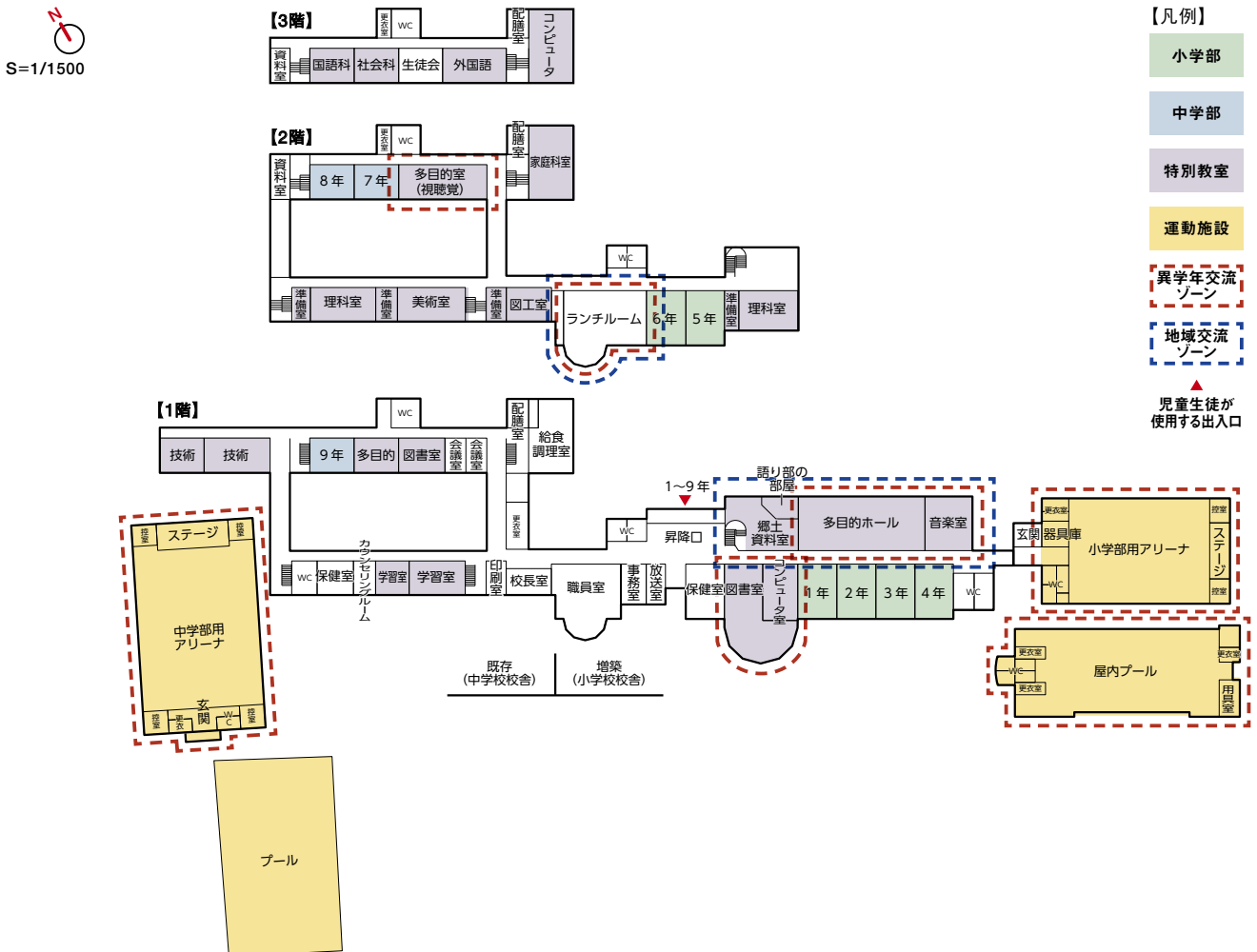


### 【凡例】

- 昇降口
- ▲ 児童生徒が使用する門

校地計画		従来からの中学校敷地 +新しい敷地			
面積	グラウンド	19,108m <sup>2</sup>			
	校舎	小	7,274m <sup>2</sup>	中	11,834m <sup>2</sup>
		校舎	6,566m <sup>2</sup>		
体育館	1,780m <sup>2</sup>				
	小	922m <sup>2</sup>	中	858m <sup>2</sup>	

## 平面図



施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

## 1. 異学年交流スペースの充実

### 多目的ホール



広い空間と階段状の椅子を活かし、各教科の成果発表など、児童生徒のプレゼンテーション能力育成の場として利用されている。また、隣接する音楽室と一体的に使用することもでき、小中合同の始業式や終業式、吹奏楽部等の部活動にも使用している。

### ランチルーム



校舎中央に配置されたランチルームでは、児童生徒が共に準備をし食事をとることで、自然なコミュニケーションが生まれる交流スペースとなっている。

### 図書室



小中で共同利用している図書室は、校舎中央に配置されている。また、昇降口に近く、スクールバスの待ち時間を過ごす場にもなっている。児童生徒が待ち時間にも、本を読んだり友人と話したり、それぞれ充実した時間を過ごせるようになっている。

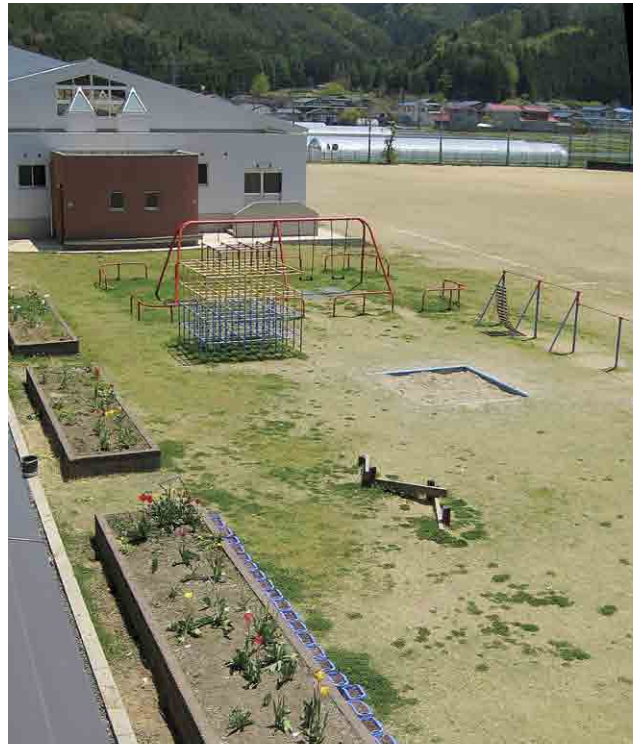
## 2. 小中一貫教育の実施に適した安全性の確保

### 運動施設



湖南地区は多雪地域に位置し、冬季はグラウンドが使用できなくなるため、利用が集中しないように、新たに体育館を整備している。また寒冷のため、夏季の屋外プール使用期間が短いことや児童生徒の体格差等も配慮し、屋内プールの整備も行っている。

### プレイコート



低学年の児童が校庭で安心して遊べるように校舎付近に遊具や、天然芝生のプレイコートを整備している。

施設一体型事例

施設分離型事例

## 3. 地域と共にある学校施設の整備

### 語り部の部屋



### 郷土資料室



和室で囲炉裏のある語り部の部屋では地域の住民を招き民話学習や茶道教室等を行っている。

郷土資料室は、郷土が生んだ文学者や芸術家等の作品コーナーを設け、総合的な学習の時間などで、郷土の偉人についての学習を行っている。

事例間比較

## 校長の視点から

こやま たけゆき  
湖南小中学校 校長 小山 健幸

本校が目指す小中一貫教育重点事項の一つに、「表現力の育成」があげられます。学習の成果を伝えあう場や、発表する機会を多く教育活動に取り入れたいという理由から、291㎡ある多目的ホールを設置しました。多目的ホールでは、児童生徒同士の発表会、始業式、終業式や地域の方々を招いた様々な行事等を行っています。さらに、地域人材を活用した表現力育成を目指して、民話学習ができる語り部の部屋や郷土の偉人を紹介した郷土資料室が設けられ、「ふるさと湖南誇りを胸に」の育成に役立っています。

# 2. 春日学園

茨城県 つくば市立春日小学校・春日中学校



校舎外観

## 背景

つくばエクスプレスの開通に伴い、研究学園都市駅周辺の住宅開発が進み、人口が急増。このため、施設一体型の小中一貫校の新設を計画、平成24年4月に開校した。

春日学園は、つくば市で初めての施設一体型校である。つくば市では、平成24年度から、市内の全小・中学校53校（15学園）において、小中一貫教育を本格実施している。

## 学校概要

学校規模	[小]普通:34学級(1163人) 特別支援:2学級(11人) [中]普通:9学級(288人) 特別支援:2学級(2人)
学年段階の区切り	4-3-2
開校年	平成24年(2012年)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
校地面積	46,628㎡
延床面積	14,718㎡

## 教育上の特色

「未来を拓き、社会に貢献できる人材の育成」を教育目標とし、9年間の継続的な学びを通して「論理的に考える力」「人と豊かにかかわる力」を育てることを重点においている。

5年生から部分的に教科担任制を導入するなど、4-3-2制を取り入れた柔軟な区切りを設けると共に、「考える時間」「つくばスタイル科」等、9年間の学びの連続性を活かしたカリキュラムを構築している。

また、兼務発令による中学校数学教員の小学算数授業、小・中学校教員による音楽のT・T授業や、大学や研究機関との連携によるロボットの授業等、多様で実践的な活動を行っている。

## 学校運営(マネジメント体制)

1人の校長が小・中学校長を兼務する。教育課程の編成や生徒指導の中心となる教諭や養護教諭、事務職員は兼務発令されており、小中相互の乗り入れ授業の実施、教務関係、生徒指導関係、学校事務は共同実施している。

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

	学年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
学年段階の区切り	前期			中期			後期		
授業方法	学級担任制				教科担任制				
運営方式	特別教室型								
授業時間	45分							50分	
校長	校長1人								
副校長・教頭	小学校教頭1人				中学校教頭1人				
部活動	なし				部活動				
PTA	PTA組織を一本化								
ゾーニング	1階	2階	1階	3階	2階	3階			
校長室	特別教室棟1階								
職員室	特別教室棟1階(校務センター)								
保健室	特別教室棟1階								
特別支援学級	特別教室棟1階								
音楽室	特別教室棟1階				特別教室棟3階				
家庭科室	なし				特別教室棟3階				
図書室	特別教室棟2階								
ランチルーム	なし								
昇降口	普通教室棟1階								
体育館	1階								
グラウンド	サブグラウンド				グラウンド				
プール	1階								
給食室	特別教室棟1~3階(給食センター方式)								



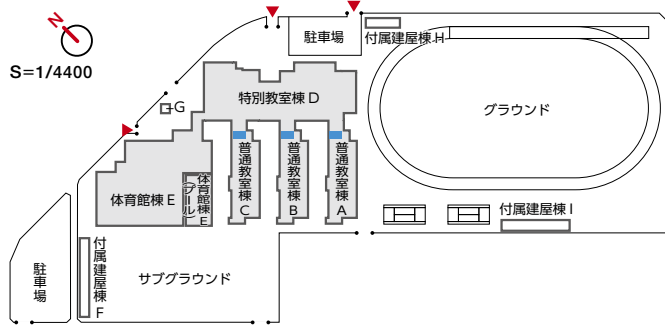
計画・設計のポイント

- 1.異学年交流スペースの充実
- 2.小中一貫した教育課程に対応した施設環境
- 3.学校運営の一貫性確保への対応

施設上の特色

- 普通教室棟は、体格差や発達段階、学年ごとの授業運営等に配慮し分棟形式としている。各普通教室棟（3棟）、特別教室棟、体育館棟は全て南北、東西方向に抜けるスクールアベニュー及び2階・3階の渡り廊下によってつながれており、児童生徒・教職員の交流を促進するとともに、大規模校でありながらスムーズな生活動線を確保している。
- 特別教室や管理諸室は共用としており、特別教室棟は階によって科学・芸術・メディアといった分野ごとにまとめられて配置している。管理諸室は、スクールアベニューや校門、各棟出入口を見通せる位置に設けている。

配置図

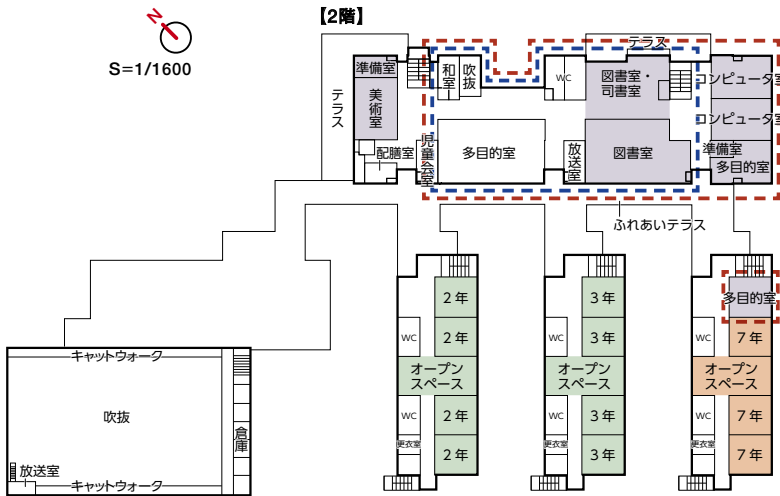


【凡例】

- 昇降口
- ▲ 児童生徒が使用する門

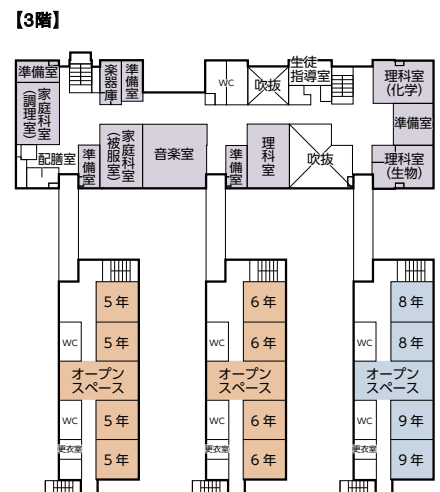
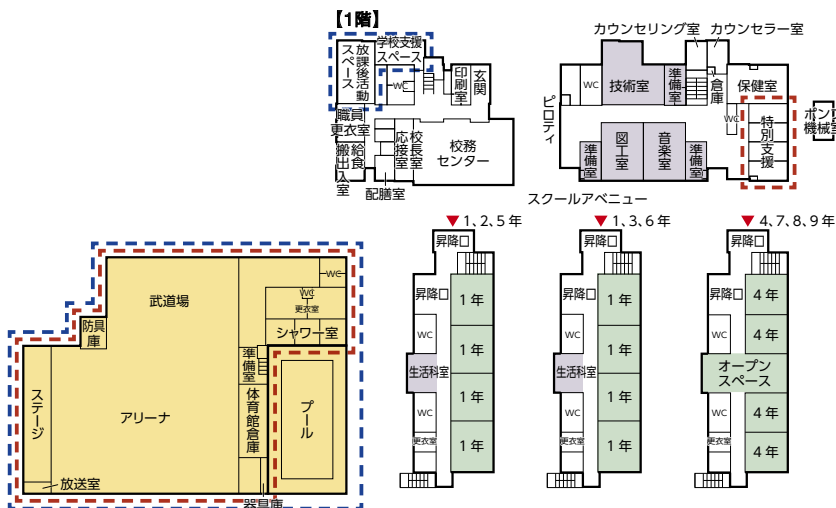
校地計画		新しい敷地	
面積	グラウンド	26,194m <sup>2</sup>	
		小	4,046m <sup>2</sup>
		中	22,148m <sup>2</sup>
	校舎	12,691m <sup>2</sup>	
		小	7,520m <sup>2</sup>
		中	5,171m <sup>2</sup>
体育館	2,027m <sup>2</sup>		
	小	1,006m <sup>2</sup>	
	中	1,021m <sup>2</sup>	

平面図



【凡例】

- 前期
- 中期
- 後期
- 特別教室
- 運動施設
- 異学年交流ゾーン
- 地域交流ゾーン
- 児童生徒が使用する出入口



※平成25年度時点のゾーニングを示す。児童生徒数の増加により計画時のゾーニングとは異なる。

※つくば市においては、春日学園の児童生徒数の増加に伴い、施設一体型小中一貫校となる分離新設校の整備を計画している(平成30年4月開校予定)。

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

## 1. 異学年交流スペースの充実

### ■ スクールアベニュー・渡り廊下



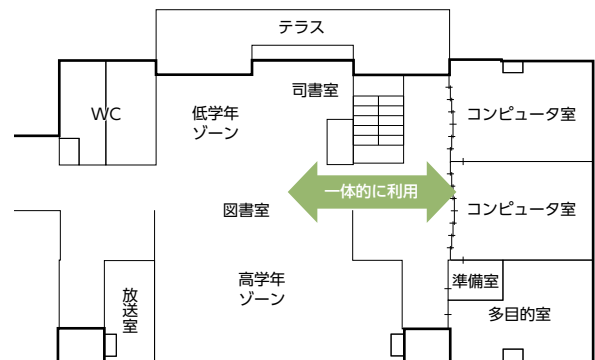
敷地の東西・南北および各棟をつなぐスクールアベニューと、各棟の2・3階をつなぐ渡り廊下は、分散している各棟をつなぐ動線としてだけでなく、コミュニケーションを促進する役割も果たしている。

### ■ 図書室



図書室は低学年と高学年でゾーンが設けられてはいるが、全体的には間仕切りがなくオープンなつくりとなっており、異学年の自然な交流ができる空間となっている。低学年ゾーンの閲覧スペースには、木よりも柔らかいコルク床を採用している。高学年ゾーンでは落ち着いて読書や調べ物学習に取り組めるように机や本棚を配置している。

### ■ コンピュータ室



コンピュータ室は図書室と同じフロアに配しメディアゾーンとして一体的な利用も可能となっている。家具が分散配置型となっており、交流授業で上級学年が指導に参加する際にも適した空間となっている。

## 2. 小中一貫した教育課程に対応した施設環境

### 理科室



理科室は小学生用、中学生用とも3階に集め、小学生用は、実験時に全員が黒板を向けるように半楕円形の教室となっている。

### 音楽室



5年生から9年生が利用する3階の音楽室はほかの特別教室より広く面積をとっており、ゆとりあるスペースを活かした創作・表現活動を展開している。

### つくばスタイル科

「つくばスタイル科」を中心とする9年間の連続した活動の中で、つくば市全体で取り組まれている「つくば次世代型スキル」の育成を目指している。つくばスタイル科では近隣の大学や研究機関等と連携し、バランスのとれた人間性と国際的な視点を兼ね備えたつくば市民の育成をテーマに様々な活動に取り組んでいる。



電子黒板を活用したプレゼンテーション ロボットを活用したテレビ会議

## 3. 学校運営の一貫性確保への対応

### 校務センター



スクールアベニューに面し、窓から学内の様子が見える



ICT機器を活かした職員会議

職員室、事務室が統合された校務センターは、スクールアベニューに面し、校門や各棟の出入口を見通すことができる位置にあり、児童生徒の様子を見守りやすい。また、積極的なICT機器の導入が図られており、広く人数の多い校務センターにおいても、ICT機器を活かし職員間の情報共有・意思統一を図っている。

▶ 校長の視点から

かたおか きよし  
 春日学園 校長 片岡 浄

本学園では、小1～中3までの子供が、同じ学舎で学んでいます。また、9年間の連続した学びを保障し、人と豊かに関わる力の育成に努めています。その校舎の特長は、明るくオープンな雰囲気のある教室、読書に集中することができる学校図書館、発達段階を配慮した特別教室等、学年や学級の垣根を越え、人間関係を構築しやすい環境構成になっています。子供や保護者からの評判も極めてよいです。これからも恵まれた施設で、異学年交流や小中の教員による交換授業等特色ある教育の推進に努めていきたいと考えています。

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

# 3. 荏原平塚学園

東京都 品川区立平塚小学校・荏原平塚中学校



施設一体型事例



グラウンド側から見た校舎外観

## 背景

品川区では平成15年に小中一貫特区の認定を受け、平成18年度から区内全ての小・中学校において、小中一貫教育への本格的移行を実施した。平成22年4月に品川区で4校目の施設一体型の小中一貫教育校として荏原平塚学園を開校した。

施設分離型事例

事例間比較

	学 年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
学年段階の区切り	初等部			中等部			高等部		
授業方法	学級担任制			教科担任制					
運営方式	特別教室型								
授業時間	45分			※	50分				
校長	校長1人								
副校長・教頭	小学校副校長1人			中学校副校長2人					
部活動	なし			部活動					
PTA	PTA組織を一本化								
ゾーニング	1階	2階	3階			4階			
校長室	2階								
職員室	2階(校務センター)								
保健室	1階								
特別支援学級	なし								
音楽室	2階			5階			5階		
家庭科室	なし			5階					
図書室	3階(メディアセンター)								
ランチルーム	5階(ホール)								
昇降口	各教室へ直結			1階					
体育館	地下2階、地下1階								
グラウンド	グラウンド								
プール	6階(床昇降式)								
給食室	1階(単独校方式)								

※第5学年の後期から50分に移行

## 学校概要

学校規模	[小]普通:13学級(359人) [中]普通:6学級(178人)
学年段階の区切り	4-3-2
開校年	平成22年(2010年)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上6階/地下2階
校地面積	12,113m <sup>2</sup>
延床面積	14,202m <sup>2</sup>

## 教育上の特色

「好学」「誠意」「鍛錬」を教育目標とし、9年間を通して自ら熱心に学習し、万人に真心を尽くし、心身を鍛えて強い意志と忍耐力を養うための指導に取り組んでいる。

児童生徒が目標に向かって計画的な学習に取り組むために、各学年における1年間の学習指針を示した「荏平学習ガイド」を毎年配布している。また、児童生徒に生活規律や実践力を身に付けさせるための市民科学習や、全児童生徒が1年間継続して行うあいさつ運動などを実施している。

## 学校運営(マネジメント体制)

1人の校長が小・中学校を兼務しているが、副校長が3名配置されており、それぞれ小中の担当が決まっている。

全職員に対して兼務発令されており、生徒指導関係、学校事務は共同実施している。

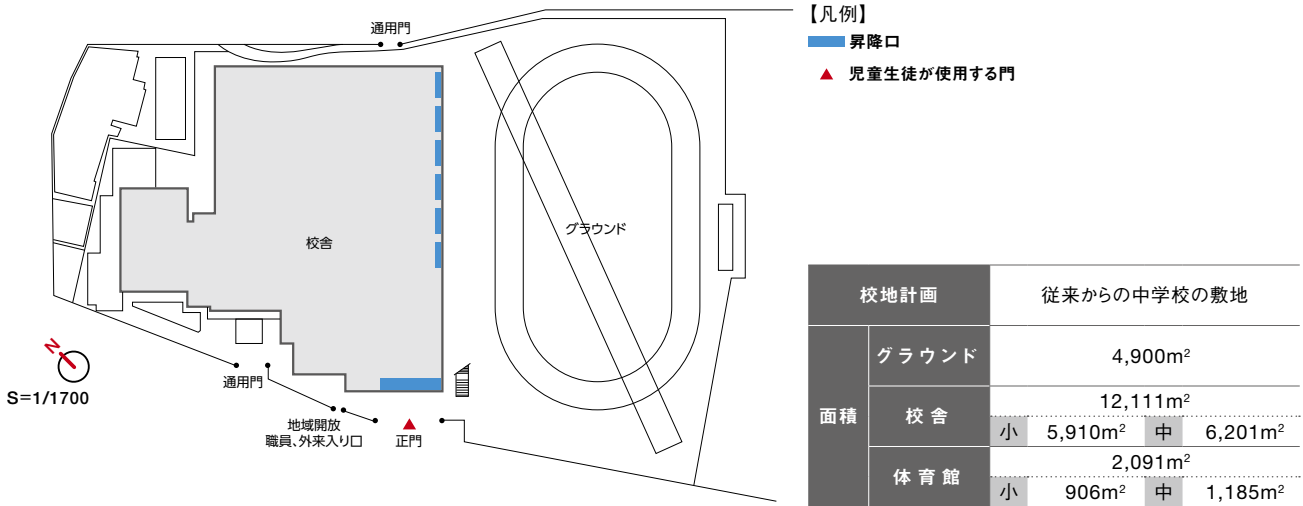
### 計画・設計のポイント

1. 学年段階の区切りに対応した空間構成、施設機能
2. 小中一貫教育の実施に適した安全性の確保
3. 異学年交流スペースの充実
4. 地域と共にある学校施設の整備

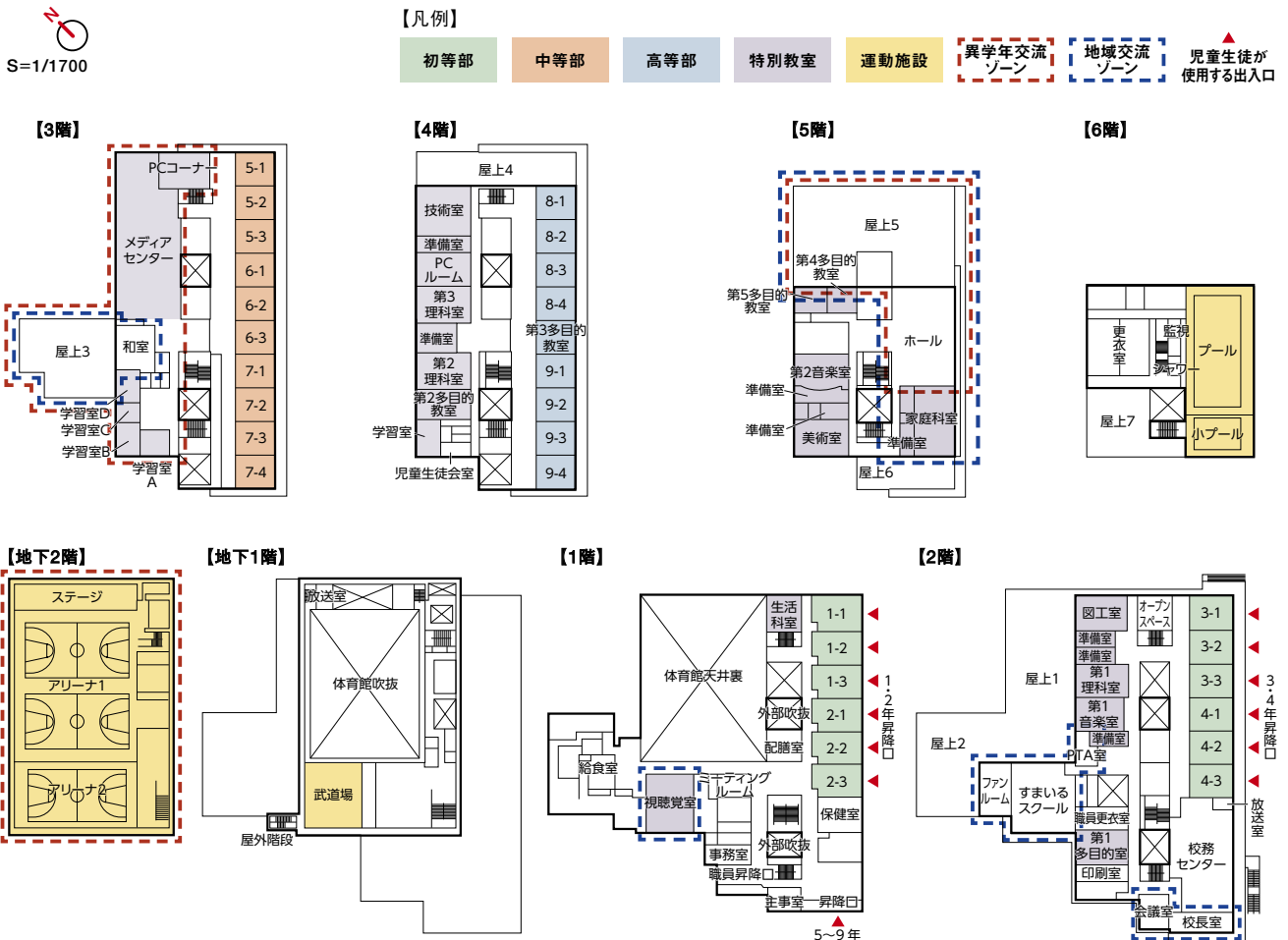
### 施設上の特色

- 都市部の施設一体型校として、校舎の地下2階に体育館を配置し、屋上にプールや広場を設けるなど、コンパクトな建物とすることで、可能な限り広い面積のグラウンドを確保している。
- 普通教室は、学年段階の区切りに合わせて1～4年を1、2階、5～7年を3階、8～9年を4階のグラウンド側にまとめ、特別教室は普通教室と階段を挟んで反対側にまとめて配置されている。
- 昇降口については、児童生徒の日常や避難時の安全性に配慮し、分散して配置しており、1～4年の昇降口は各教室のグラウンド側に設けてある。

配置図



平面図



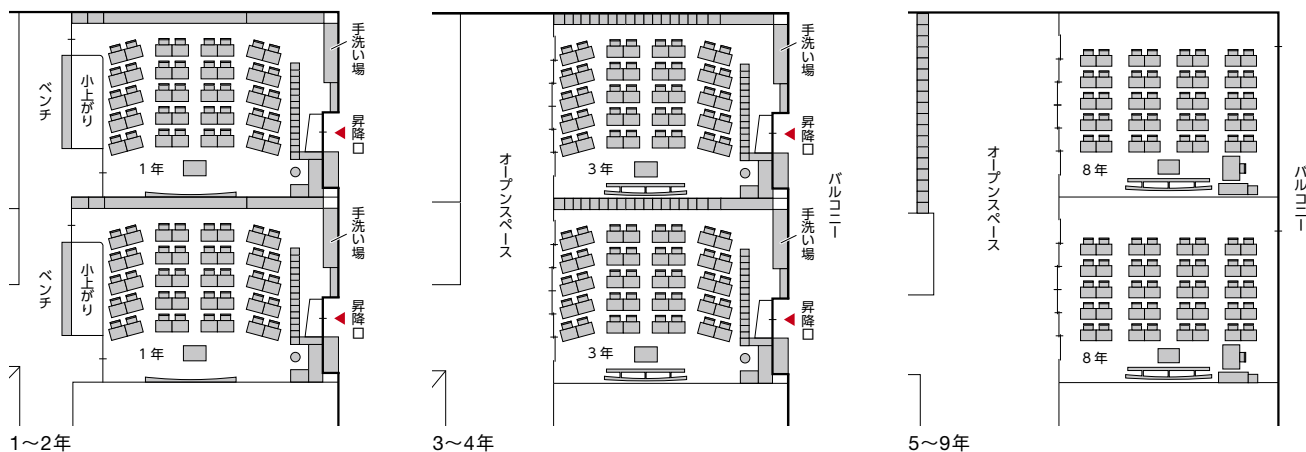
施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

## 1. 学年段階の区切りに対応した空間構成、施設機能

### 教室・教室周り



普通教室周りは、学年ごとの学習形態の進展に応じた計画となっている。

1~2年の教室は昇降口、手洗い場、ロッカー等を教室内に配置してさまざまな機能が教室内でまかなえる自己完結型の教室となっている。

3~4年の教室はクラス単位での活動を中心に想定し、教室内の設備を充実させると共に、クラス単位のグループ学習だけでなく学年単位での習熟度別学習にも対応できるオープンスペースを併設している。

5年以上の教室は学年単位の習熟度学習に対応し、オープンスペースにPCを置いた学習スペースを設置している。ステップアップ学習（基礎学力向上）に利用できる多目的教室を同じフロアに計画している。

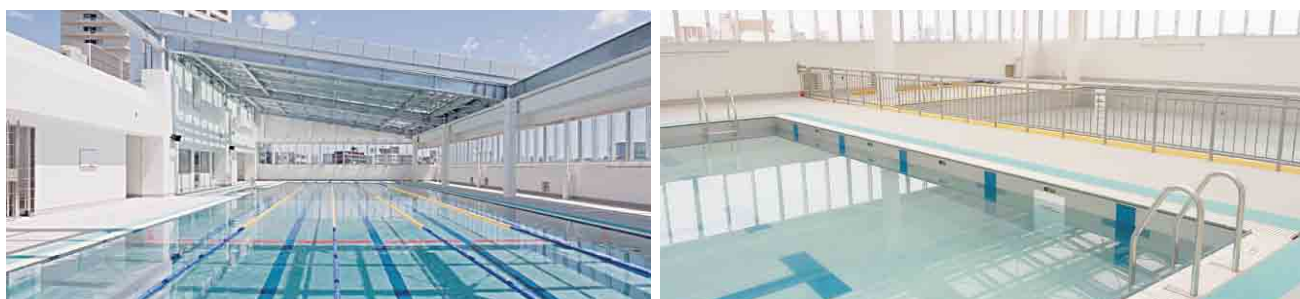
## 2. 小中一貫教育の実施に適した安全性の確保

### 動線



1~4年は各教室に昇降口が整備されており、バルコニーから直接教室へ入ることができる。学年が上がることによる環境の変化を実現すると共に、避難ルートとしても有効である。また普通教室のあるフロアには3カ所に階段を設けている。階段ごとに色分けし、中央の階段は幅を広くすることで、通常時も避難時も児童生徒が混雑しないように計画している。

### 全天候・全学年対応型プール



校舎最上階の6階に設置したプールは、全天候に対応できるように開閉屋根式を採用し、5月~10月の授業に対応している。また、水位調整のバランスタンクの代わりに小プール（右写真奥）を設置し、低学年の児童が安全に使用できるようにしている。

### 3. 異学年交流スペースの充実

#### メディアセンター周辺



全学年が利用し易い3階に図書室とPC教室を一体化したメディアセンターや、和室、多目的教室を設けている。和室は図書の閲覧にも利用できるほか、屋上の日本庭園に面し、日本の四季の変化を感じることができる。これらは学年間だけでなく、地域住民を含めた多様な交流の場としても活用している。

施設  
一体型  
事例

### 4. 地域と共にある学校施設の整備

#### 近隣に配慮した配置計画



体育館の地下化やプールの屋上設置等、土地の高度利用を行い、広い面積のグラウンドを確保すると共に地上部分の校舎のボリュームを押さえている。

さらに低層住宅地側には、歩道やポケットパーク、屋上緑化を設置する等圧迫感の軽減を図り、周辺の良好な環境づくりに配慮している。

#### ホール



5階のホールは家庭科室や屋上テラスと連続して作られており、異学年交流だけでなく、地域利用など多目的に使える空間としている。

施設  
分離型  
事例

事例  
間比較

## 校長の視点から

荏原平塚学園 校長 青木 経

施設一体型小中一貫校において一番に配慮しなければならないのは、それぞれの学年やブロック、更には学園全体で行う学習活動に応じた施設が整っているかです。

本学園は今までの小中一貫校の問題点が改善され、子供たちの動線に配慮した低学年の教室や高学年での個別学習が可能な学習室が整っています。また、2カ所の屋上広場や文化的な施設を集中させた3階には和室と日本庭園があり、精神的にゆとりある環境を生み出しています。

# 4. はるひ野小中学校



神奈川県 川崎市立はるひ野小学校・はるひ野中学校



校舎外観南東面

## 背景

平成2年から土地区画整理事業が進められた川崎市麻生区黒川・はるひ野地区に、街づくりの核となるべき公共施設として、小学校の建設が予定されていたが、地域の要望により中学校も同時に建設することとなった。その後、学校建築の有識者も加わる基本計画検討委員会での議論を経て、平成19年1月にPFI事業として学校建設に着手し、平成20年4月に小中連携校として開校した。

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

## 学校概要

学校規模	[小]普通:32学級(1057人) 特別支援:6学級(20人) [中]普通:9学級(307人) 特別支援:3学級(4人)
学年段階の区切り	4-3-2
開校年	平成20年(2008年)
構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
階数	地上4階
校地面積	30,682m <sup>2</sup> ※うち7,894m <sup>2</sup> は増築に伴い追加
延床面積	20,539m <sup>2</sup> ※うち4,800m <sup>2</sup> は平成26年に増築

## 教育上の特色

教育目標は「知力」「心情」「体力」「小中連携」がキーワードとなっており、楽しく学び、助け合い、明るく、だれとでも仲良く、という学校方針である。学習発表会や音楽集会等、各種行事を小中合同で行うほか、異学年を招待して行う授業を日常的に実施するなど、児童生徒が自然に交流しながら、学校方針を実践できるよう、様々な活動を積極的に取り入れている。

## 学校運営(マネジメント体制)

学校ごとに校長が配置されており、適宜連携を図っている。管理職を除く全教職員に対して兼務発令がされており、9年間を通して児童生徒の成長を見守っている。

	学 年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
学年段階の区切り	前期				中期			後期	
授業方法	学級担任制				教科担任制				
運営方式	特別教室型				教科教室型				
授業時間	45分				50分				
校長	小学校長1人				中学校長1人				
副校長・教頭	小学校教頭1人				中学校教頭1人				
部活動	なし				ジュニアクラブ			部活動	
PTA	PTA組織を一本化								
ゾーニング	1階	2階	1階	2階	4階	3階	3階	4階	
校長室	1階							1階	
職員室	1階(校務センター)								
保健室	1階								
特別支援学級	1階							3階	
音楽室	3階							3階	
家庭科室	なし				3階(被服室・調理室)				
図書室	2階								
ランチルーム	なし							3階	1階
昇降口	1階	2階	1階	2階				2階	
体育館	2階(小アリーナ)							1階(大アリーナ)	
グラウンド	グラウンド								
プール	屋上(床可動式)								
給食室	1階(単独校方式)							なし	



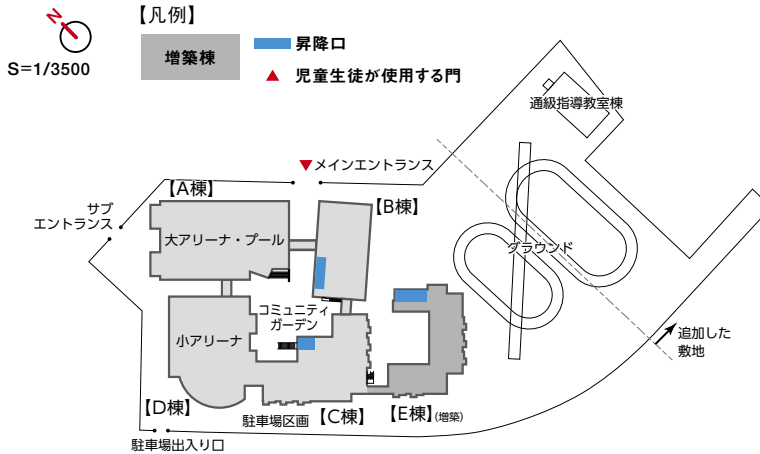
## 計画・設計のポイント

1. 学年段階の区切りに対応した空間構成、施設機能
2. 地域と共にある学校施設の整備
3. 異学年交流スペースの充実
4. 学校運営の一貫性確保への対応

## 施設上の特色

- 平成20年に開校後、当初予想を上回って児童生徒数が増加したため、平成26年4-3-2の学年段階の区切りを保つような増築・改修を実施。校舎は中庭を取り囲む4棟に加えてグラウンドにE棟を増築し敷地も拡充している。
- 小中の職員室（校務センター）を一体化し、校門、中庭、校庭が見渡せるB棟1階に配置し、A棟1階には、地域交流センター、わくわくプラザ等を設け、学校が地域コミュニケーションの核として機能できる整備を行っている。
- 児童生徒の発達段階に応じて空間構成や教室環境に特色や変化を付けており、中学部では教科教室型を導入している。

## 配置図

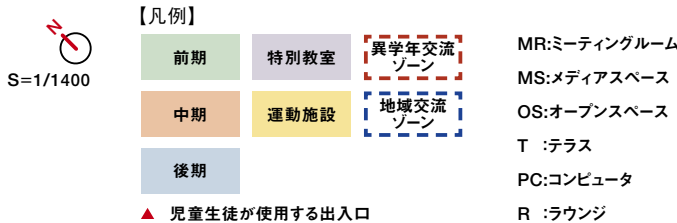


### 【整備の沿革】

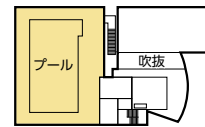
- 平成19(2007)年 着工
- 平成20(2008)年 開校
- 平成26(2014)年 児童生徒数の増加により増築

校地計画		新しい敷地 +増築に伴い敷地を追加	
		開校時	平成26年
グラウンド	小	7,465m <sup>2</sup>	11,966m <sup>2</sup>
	中	4,406m <sup>2</sup>	6,199m <sup>2</sup>
校舎	小	13,262m <sup>2</sup>	18,062m <sup>2</sup>
	中	7,827m <sup>2</sup>	12,627m <sup>2</sup>
体育館	小	5,435m <sup>2</sup>	5,435m <sup>2</sup>
	中	2,477m <sup>2</sup>	2,477m <sup>2</sup>
増築棟	小	1,279m <sup>2</sup>	1,279m <sup>2</sup>
	中	1,198m <sup>2</sup>	1,198m <sup>2</sup>

## 平面図

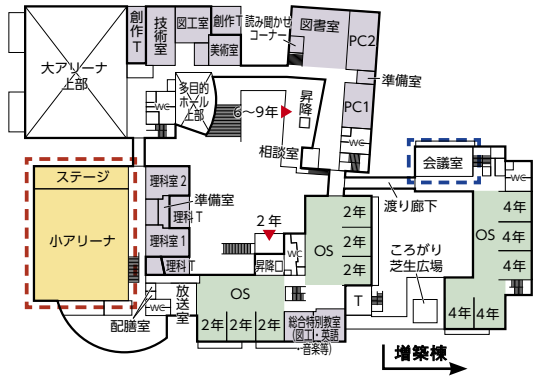


### 【屋上】

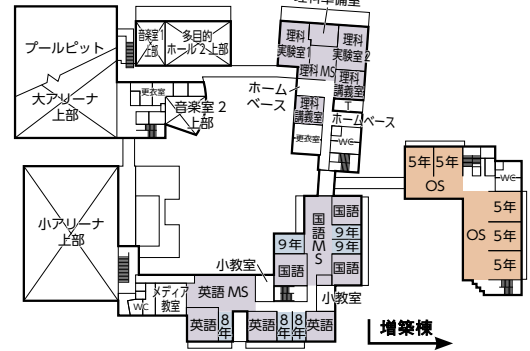


※A~D棟の3、4階は、中学生が教科教室型として使用している。

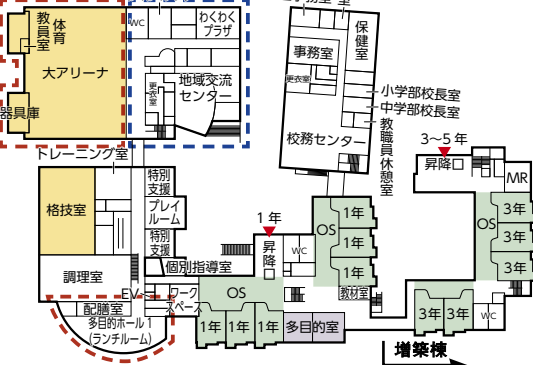
### 【2階】



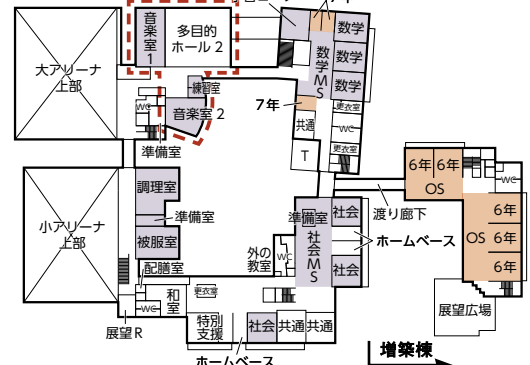
### 【4階】



### 【1階】



### 【3階】



施設一体型事例

施設分離型事例

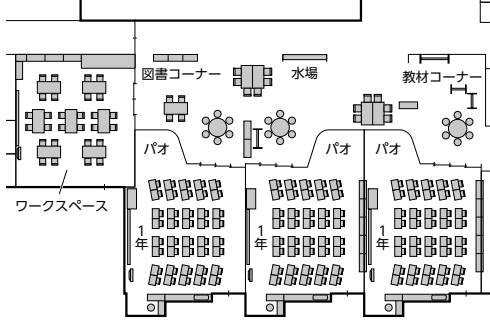
事例間比較

## 1. 学年段階の区切りに対応した空間構成、施設機能

### ■ 教室・教室周り

#### ● 小学部：低学年用教室

小学1～2年生の教室は、教室内に様々な機能を内包させるため高学年教室より広くゆったりとしたつくりになっている。パオという小さなスペースを教室内に設置することで、多様な学習活動を可能にするとともに、集団生活、学校生活に慣れるために子供が自分で居場所を選択できるよう工夫している。



教室の一角に設けられた小空間「パオ」。クラスのミニステージとしても活用される。

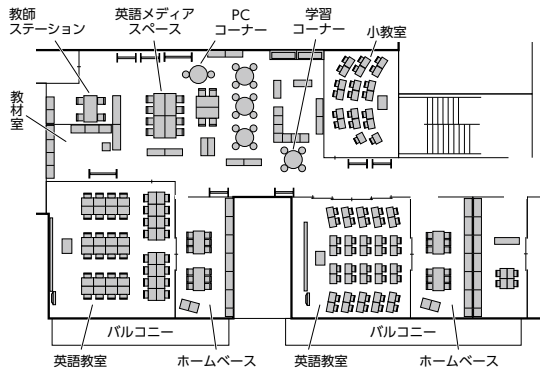


教室前のオープンスペースを利用して作業をする児童たち

#### ● 中学部：教科教室

中学部は教科教室型であり、各教科教室のほか、教科ごとにメディアスペースや小教室等が設置されており、生徒の多様な学習を可能としている。

また、ホームベースと各教科教室は、間仕切りを開けば一体的に利用することも可能となるなど、様々な用途に応じられるつくりとなっている。



教科教室(奥)とホームベース(手前)は、一体的な使用も可能となっている。

## 2. 地域と共にある学校施設の整備

### ■ 地域交流センター



コミュニティガーデンに面した大きな開口のある多目的ホール

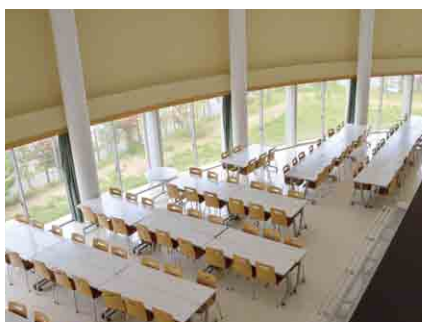


地域の会議や打合わせに使用できるミーティングルームとサロン

地域交流センターには、多目的ホールやミーティングルーム、コミュニティーサロン等があり、地域と学校との自然な交流が生まれ、学校が地域コミュニティの核となるように考えている。

### 3. 異学年交流スペースの充実

#### 多目的ホール（ランチルーム）



1階の多目的ホールは、異学年交流や地域交流のためのスペースとして設けており、児童生徒や地域の人々がランチにも利用している。

#### メディアセンター



児童生徒が利用しやすいように、オープンで明るい空間としている。



図書室とPC室が隣接しており、調べ学習を行いやすい。

児童生徒の身近な教材となる図書室やコンピュータ室を中心としたメディアセンターを、小中合同の調べ学習の拠点として学校の中心に配置している。

#### 展示・発表スペース



小学校低学年の教室前の展示



中庭に面した幅の広い階段も、一つのステージとして使うことができる。

校内にオープンスペースや広い階段を多く配置することで、各学年の展示や発表の場を多く作り出している。多様な発表場所や機会があることで、児童生徒が互いの様子を知り、学習に興味をもったり、進級への不安を軽くする効果を期待している。

### 4. 学校運営の一貫性確保への対応

#### 校務センター



教職員の休憩スペース

校務センターとして小中の職員室を一体的に整備。教職員間の一体感を生み出している。広くオープンな校務センターの脇には、小さな教職員用の休憩スペースも設けている。

#### 校長の視点から

おおくし かずひこ  
はるひ野中学校 校長 大串 一彦

平成20年4月に開校した川崎市で初めての小中合築、施設一体型の小中連携校です。PFI事業で建設が行われ、小中連携教育を強く意識した校舎環境、管理運営・給食の民間委託、地域交流センターの併設等、特徴的で高機能な学校施設を有しています。小中合築という教育環境を生かした本校の最大の特徴は「小中9年間を通じた人間形成の実現と新たな学校文化の創出」であります。小中9年間で小学部1年～4年、小学部5年～中学部1年、中学部2年～3年という4-3-2のブロックに分けた教育活動を実施し、いわゆる中一ギャップは無く、総合的な学習の時間を中心に小中学生と一緒に学習する場面を多く設定しており、思いやりなど豊かな人間性の育成が図られています。